

第4回 地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり検討委員会  
議事概要

1. 日時：令和4年5月23日（月）10:00-12:00
2. 場所：中央合同庁舎2号館共用3A・3B会議室及びオンライン
3. 有識者（五十音順）

検討会委員：

アトキンソン委員、阿部委員、梅澤座長、高野委員、鈴木委員、松嶋委員、山田委員、  
涌井委員

4. 議題

- (1) アクションプラン（案）について
- (2) その他

5. 議事概要

観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。

（各委員の主な発言は以下のとおり）

<アクションプラン（案）>

- ・ コネの施策の方向性、日本の情報を示すという役割を明確にしてはどうか。L341 加盟旅行会社等への後に「手厚いファクト共有」を追加してはどうか。
- ・ 意見に賛同する。日本の現状も含めた発信が必要。
- ・ 地方のハイヤーに関する記載がないが、県を超える手配ができないことによる支障が生じているので再度検討いただきたい。
- ・ ハイエンド層の総消費額は1桁違うのではないか。100万円と300万円の違いでは低すぎる。ビジネス以外は長期滞在が多いため1,000万円にした方がよい。  
→ハイエンド層が持っているお金と地方で実際に落とせるお金は異なる。単価の高い宿泊施設も地方では限られ、1,000万円を地方で落とすことが難しい環境であるから、この委員会で検討している。
- ・ L126からの「高付加価値旅行者の誘致に向けた課題」全体について、価値に見合ったプライシングがなされていないという課題がある。地域を高付加価値旅行者が訪れてもお金を落とす観光コンテンツがない。
- ・ L202からの「ヒトの課題」について、体験や観光をマネジメントする人材が不足していることによりマネタイズがなされていない、教育・育成が急務である。  
→L254-255は組織論であり、明確に記載した方がよい。
- ・ L234「コネの課題」③へ海外メディアへのアプローチを入れてはどうか。

- ・ P.13「おわりに」へ観光外交といういい言葉を入れていただいた。他に、観光産業は関連する第一次産業等も含めて疲弊し、担い手が不足している状況にあるため、提供側が持続可能なビジネスになる必要があること、官民一体となって取り組む必要があるとの問題意識を記載できないか。  
 →工芸品など文化に関する担い手不足は文化庁の問題である。本検討会で、これまでデータ・エビデンスなどに基づいて議論したこともなく、大きな問題である担い手をさっぱりと取り上げるのは違うのではないか。
- ・ L254-258 の地域の体制整備に関する書き方は、ハコを作ることに注力して、ハコを作っている間に他が進まないということにならないか。L258 を「体制整備・機能確保」とすることではどうか。
- ・ ハコを用意したとして、どうやって官公民が連携するのか。ハコを作るだけでなく、システム化のようなことを書き添えていただくとありがたい。地域金融機関も何に融資したらいいかわからないのではないか。
- ・ 高サービスな宿泊施設の整備には、時間が掛かっても事業性を確立することが重要。L291 に役割分担、資金調達書いていただいたが、「事業性を確立し、適切に評価した上で」を入れていただけるとありがたい。

<参考資料>

- ・ P.21 課題②適切な宿泊施設の具体像が存在しないを追加してはどうか。本文 183-184 に入っている。
- ・ P.22 待遇改善の前に事業者による人材への投資を入れてほしい。本文 205 に入っている。
- ・ P.22 他業種人材とは。
- ・ 地方における高付加価値旅行で、地方は経済効果、地場産業の活性化を期待する。目標設定の際には、高付加価値旅行者が来た時にどの程度お金がおちるか、地域でどれぐらい経済効果があるかが目安にあるとよい。